

2021年8月31日

三菱プレジジョン株式会社

東京臨海部副都心地域を再現したシミュレーションモデルの使用体験の参加者募集について

三菱プレジジョン株式会社は、2018年度より内閣府主導のもと「戦略的イノベーション創造プログラム (SIP) 第2期 自動運転 (システムとサービスの拡張)」(以下、「SIP 自動運転」といいます。)の「仮想空間での自動走行評価環境整備手法の開発」に参画しております。このプロジェクトでは、産学合同 12 機関からなるコンソーシアムを形成し、様々な交通環境下における安全性評価を行うため、実現象と一致性の高いシミュレーションモデルである仮想空間における安全性評価環境プラットフォーム DIVP (R) (DIVP (R) : Driving Intelligence Validation Platform) の構築に取り組んでおります。

今般 SIP 自動運転では、2021年11月2日から東京臨海部実証実験フィールドである臨海副都心地域の環境を仮想空間上で再現したシミュレーションモデルの使用体験の参加者を募集し、実環境との一致性検証を行います。

参加者は、DIVP (R) 検証プラットフォームプロトタイプ版「走行環境-電波伝搬-センサ」モデルでのシミュレーション実行結果と関連する情報に触れていただき、自動運転システムの開発、評価におけるその有用性を確認いただきます。

特に今回の実証実験におきましては、実測に基づく (1)NCAP (注 1) 環境、及び(2)臨海副都心地域 (お台場) の仮想環境でのシミュレーション群を、シナリオパッケージとして用意をしており、参加者は、このパッケージの実行結果にて、実際の環境要因(運転環境、道路、地形、天候など)が組み合わされた、現実の世界で起こり得るセンサにとっての弱点 (限界) を検証することができます。この再現性に優れた仮想空間において、様々な条件設定ができることによる、安全性検証の作業効率化等を確認いただきます。

あわせて三菱プレジジョン株式会社が担当する仮想空間 (お台場 Virtual Community Ground) 及び SDM ジェネレータ (注 2) による仮想環境シナリオをご確認いただけます。

(注 1) NCAP (New Car Assessment Program、新車アセスメントプログラム) は、1979年よりアメリカで実施されている自動車の安全性の評価になります。また、他の国や地域で実施されている評価にも名称が使用されています。

(注 2) SDM ジェネレータ (Space Design Model ジェネレータ) は、走行環境のデータベースを用いて、仮想空間上に安全性評価を行うためのテスト環境を生成するためのソフトウェアになります。

詳しくは、以下の各ホームページをご参照ください。

【内閣府ニュースリリース】

<https://www8.cao.go.jp/cstp/stmain/20210804sipadus.html>

【NEDO-HP 参加者募集】

https://www.nedo.go.jp/news/other/ZZCD_100042.html

【DIVP ホームページ】

<https://divp.net/>

以上